

議事録

審議会等名	つくばみらい市水道運営審議会
開催日	令和5年10月17日（火曜日）
開催場所	つくばみらい市役所谷和原庁舎 第2会議室
出席者	出席委員 青木謙二、秋田恵子、朝比奈節子、飯島宣昭、飯村香代子 岩井千鶴、木田裕通、中山和明、根本志枝、野村俊光、 間根山知己 欠席委員 片見礼子 市出席者 飯泉都市建設部長、小林上下水道課長、大澤課長補佐、 坂本課長補佐、柳橋係長、飯田職員（会計年度職員）
議事	(1) 令和4年度水道事業会計決算について (2) 茨城県水道事業広域化について
議事概要	<p>1 開会 午後1時30分</p> <p>2 都市建設部長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 令和4年度水道事業会計決算について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が令和4年度水道事業会計決算について業務状況、経営状況、事業概要等を説明し、次の意見があった。</li> </ul> <p><b>【意見】</b></p> <p>委員 令和2年度から令和3年度にかけて3%有収率が下がったのはなぜか。</p> <p>事務局 小絹地区で大規模漏水が発生したことが主な要因である。深夜時間帯の配水量が徐々に増加したため、漏水の可能性を疑い調査を行ったが、調査エリアが広がったため、漏水箇所の特定に時間を要した。</p> <p>議長 それだけ大きな漏水だと道路の陥没などなかったのか。</p> <p>事務局 漏水箇所が国道の側道にある排水路付近だったことから、漏水した水が全て排水路へ流れ込んでいた。そのため、道路の影響は無かったが、発見するのに時間がかかってしまった。</p> <p>委員 最近、日本全国で水道管の老朽化による事故などのニュースを目にしている。実際、市内ではどのくらい更新が進んでいるのか。また更新の方法は、具体的にどうやっているのか。</p>

	<p>事務局 市内の管路総延長は 469 km、その中で耐用年数 40 年を迎えているのは 38 km になり、管路経年化率は約 8% である。今後、昭和 40 年代から 50 年代に整備された管が、一気に更新時期を迎える。更新基本計画も 10 年目に入り、今年度は、今までの実績と更新内容を再検証する業務を発注している。管路の更新は経年化だけの判断ではなく、漏水が頻繁な箇所や地域の特性を考慮した上で、今後の更新計画を進めていく。</p> <p>更新の方法は、既設管の隣に新しい水道管を埋設し、水質確認や水圧試験を行った上で、順次新しい管に切り替えて古い管を切り離す方法をとっており、極力利用者に対し影響が出ないように行っている。</p> <p>会長 JA 小絹ホールから青木の橋にかけて行われている水道管工事の目的は何か。</p> <p>事務局 茨城県企業局で行っている送水管布設工事である。県南広域と県西広域を結ぶもので、災害等の非常時などの水の供給を図るための送水管、連絡管の整備として、工事を行っていると聞いている。</p> <p>委員 収益的収支の当年度純利益が 75,604 千円、将来の経営戦略では令和 7 年度に 15,338 千円となっているが、いくらずで推移していくのが理想なのか。</p> <p>事務局 経営戦略上は徐々に減少する見込みになっているので、今後いかに減らさないかを考えていく。いずれにしても令和 7 年度中には経営戦略の見直しが必要であり、様々なシミュレーションをしながら審議会でも審議していくことになる。</p> <p>委員 8 月の新聞記事で、他市の値上げの記事を読んだが、値上げはすぐに必要なのか。</p> <p>事務局 現時点では、すぐに値上げをしなければいけないという状況ではなく、具体的な値上げの計画はない。ただ、今後の経営戦略の見直しと財政状況のシミュレーションをしていく際に、将来を見据えてどうしても料金を値上げしないと水道事業が成り立たないという試算が出てしまった場合には、値上げの検討もしていくことになる。</p> <p>(2) 茨城県水道事業広域化について</p> <p>・事務局が茨城県水道事業広域化について、県の取り組み状況や今後</p>
--	---

	<p>の予定について、茨城県水道事業広域連携推進方針（概要版）や検討・調整会議の設置要綱（案）を説明し、次の意見があった。</p> <p><b>【意見】</b></p> <p>委員 1 県 1 水道の広域化が望ましいように感じるが、広域統合をめざした奈良県、広島県で、奈良市と広島市では統合への参加を見送ったという報道も聞いた。</p> <p>市町村でメリット、デメリットの両方をよく検討していく必要があるが、どのような考えで臨んでいくのか。</p> <p>事務局 各事業体で、様々な課題が山積している中で、これから細かなシミュレーションが始まる。広域化によって統合による経費削減というメリットがある一方で、お客様窓口等の現在の体制を維持できるのか、サービス面を含めて具体的にどこまで寄り添えるのか詰めていきたい。また、本市の水道事業の経営がこのまま続けばよいが、物価高騰等、社会情勢の変化に伴い、厳しくなることも予想されることから、広域化に統合するタイミングはいつなのか、調整会議に参加し、詳細な検討を行う。調整会議での検討内容については、審議会でも説明していく。</p> <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員から次の意見があった。</li> </ul> <p><b>【意見】</b></p> <p>会長 利益がでていと、値下げへの要望がでる可能性もあるが、事務局の見解はどうか。</p> <p>事務局 7 千 5 百万円という純利益では、料金を下げる余裕はない。利益自体は減少しており、物価高騰等、様々な外的要因が積み重なっている。災害等有事の際の緊急対応のためにも、ある程度の留保が必要である。</p> <p>6 閉会 午後 2 時 4 5 分</p>
配 付 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年度水道事業会計決算について</li> <li>・茨城県水道事業広域化について</li> </ul>
そ の 他	傍聴人 なし